

雨がやんだ後に土砂災害が発生した事例があります。

注意報が解除された後も土砂災害に注意をお願いします。

6月30日から継続する大雨により、県内各地で多くの災害が発生しています。

降り続いた雨で土の中に貯まった水が流出するのには時間がかかるため、雨がやんだ後でも、がけ崩れなど、土砂災害が発生する可能性は続くため、注意が必要です。

県内で、雨がやんだ後に土砂災害が発生した事例を以下に紹介します。

1. 事例 2006年（平成18年）上伊那郡辰野町中村地区
2. 事例 2015年（平成27年）長野市広瀬地区

資料は[こちら（砂防課：過去の災害に学ぶページ）](#)からご覧になれます。

土砂災害は、いったん発生すると、規模が大きく、移動速度も速いため、その場から逃げることは非常に困難です。

大雨の注意報が発令されている間はもちろん、注意報が解除された後でもしばらくの間は、がけから小石が落ちたり、水が湧いているような場所や、水かさが増している川など、いつもと様子が違う場所に近づくことは、危険ですので是非おやめいただき、ご自身やご家族の大切な命をまもってください。

令和2年7月14日（火曜日）

長野県災害対策本部長 阿部 守一